第一　要旨

一九三六―七年頃の滿鮮國境紛爭事件並に一九三七年の日支事變の勃発等打續く東亞の慌しき情勢は除てより機を窺ひ虎視眈々たりし在滿共產匪等に對し愈々其好機到來の感を抱かしめ爾來其活動は逐日活潑化しありしが一九三九年ノモンハン事件の勃発により關東軍の重点蘇滿國境方面に指向せらるるや通化間島吉林（南部）方面の東北抗日聯軍第一路軍總司令楊靖宇以下共產匪土匪合計三千余名（迫擊砲重機小銃等統裝備）の跳梁跋扈に依り滿洲國の行政は殆んど県公署所在地以外に侵透せず治安全く混亂の状況に在り

關東軍はノモンハン事件終結するや之が徹底的肅正を企圖し一九三九年十月一日より吉林間島通化三省一帶に亘る大討伐を開始するに到れり

即關東軍は吉林（大部）通化間島（牡丹江省寧安県を含む）の討伐を第二独立守備隊長野副昌雄少將に担任せしめ該地域内の日滿軍警を統一指揮せしめ一年半の長期に亘り連續不斷綿密執拗なる討伐を實施す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ると共に之に即応し治本思想工作をも統制指導し軍官民協力一致の努力に依り敵匪を掃蕩殲滅す

本討伐は関東軍最後の肅正とも稱すべきものにして從來の經驗を生かし特別の機構を以て軍官民一致協力體制を確立し劃期的成果を発揚せるものにして思想匪に對する討伐肅正の模範と稱するに足る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp